

児童会・生徒会活動

ボランティア活動などの社会参加

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立阿賀小学校	校長氏名	山下 伸一	生徒指導主事氏名	堀江 大志
-----	----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『もちつき大会』**取組のねらい『キーワード：地域との一体感』**

- ア 餅をつく、丸める、食べる活動を通して、保護者や地域の方、近隣の学校との交流を深め、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
- イ 5年生の児童のリーダーシップを育て、学校集団としての活力を高め、楽しく豊かな学校生活をつくるようにする。
- ウ 全校児童で稲を育て、収穫した米でもちつき大会を開き、収穫を祝う気持ちや勤労の尊さを実感できるようにする。

取組の具体的内容『キーワード：地域との協働』

- 1 準備、運営等（児童、PTA、地域、職員が一体となって行う）
- ア 5年生が中心となり「スローガン」の策定、「ありがとうカード」（地域への感謝のメッセージを書き、配布用のもちに添付）の作成をする。
- イ 地域の方、近隣の学校等（呉南特別支援学校、呉特別支援学校、呉市立呉高校、呉工業高等専門学校、呉高等技術専門学校）に案内を出す。
- 2 もちつき大会（全校児童が育ててきたもち米でもちを作り、一緒に食べる）
- ア 5年生が中心となり、当日の進行、受付、味付けの補助などの仕事を行う。
- イ PTAの方は、米を炊く、かまどの管理、もちつきの補助、味付けなどの仕事を行う。
- ウ 一緒にもちつきをしながら、地域の方や近隣の学校等と交流する。呉南特別支援学校の児童によるあいさつも行う。
- エ 校区内の交番やまちづくりセンターにも、もちを配る。

取組の課題・創意工夫『キーワード：伝統の継承』

- ア 伝統的に、5年生にリーダーとしての自覚をもたせる取組として位置付けている。6年生に代わり、全校を動かす経験をさせることで、来年度への見通しや、リーダーとしての責務を受け継ぐ気構えをもたせている。
- イ もちつき大会は33年の歴史をもっており、5年生は、歴史あるもちつき大会において、中心的な役割を担うことができるため、仕事に対し誇りをもっている。また、目的意識がはっきりとしているため、米作りも大変意欲的である。
- ウ 阿賀中学校でも、小学6年生にソーランを教えていくことが伝統となっており、中学校区を通し、集団の一員としての望ましい態度を育てる取組が位置付けられている。

取組の成果（効果）『キーワード：自己存在感』

- ア 5年生は、一人一人が役割を分担し協力して取り組んだことから、自分のよさや、協力することのよさに気づくことにつながった。また、自分たちがリーダーとして活動できた体験を通し、自らの行動に自信を深め、リーダーとして学校を引っ張って行こうとする意欲を高めることができた。
- イ 地域の方ともちつきを通し、交流したことで、地域の一員としての意識を高めることができた。

今後の展開『キーワード：自己決定の場を増やす』

もちつき大会がより充実した取組になるように、どのような工夫や改善が必要か、児童の意見や考えを参考にし、来年度の計画を立てていきたい。このことで、児童の自己決定の場や機会を増やし、自己実現の喜びをこれまで以上に味わわせていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード：行事を生かす』

生徒指導を充実させるために、新たな取組をしていくことも必要であるが、これまで続けてきた行事を社会性の育成といった視点で捉え直し、活動を組み立てていくことも大切であると思う。行事の精選が求められる昨今、これまでの行事を生かしながら、児童にとって中身のある活動を仕組んでいきたい。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立和庄小学校	校長氏名	徳本ひとみ	生徒指導主事氏名	寺田 茂雄
-----	----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『子どもボランティア活動』

取組のねらい『キーワード：自尊感情の向上』

- ア ボランティア精神を養う体験的な活動を通して、学校や地域社会に貢献し、自らを豊かにし、進んで他に奉仕しようとする態度を育てる。
- イ 児童が諸課題を見だし、協力して解決していく中で、望ましい人間関係を形成し、よりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
- ウ 児童の行動面や態度面を肯定的に評価する機会を工夫し、児童の自尊感情を向上させる。

取組の具体的内容『キーワード：シンプル』

- 本校にはこれまでも、運動会や学習発表会の準備など、行事の準備等で4年生以上の児童が活動する場が多くあった。これらの活動が中学校区の「育てたい児童生徒像」として示した「和庄中学校区スピリット」の「人を助け、学校や地域社会に貢献する児童生徒」につながることを意識した取組を計画した。
- 日々の清掃や委員会の活動では、時間や人手に限りがあるため、十分な清掃や整頓ができていない実態があった。これまでは不足分を一部の児童が負担していたが、これを全校児童で分担し、解決することを計画した。
- 全校で落ち葉拾いに取り組み、それを中学校区で行う「クリーン活動」につなげた。

【取組の流れ】

- ①ボランティア活動の内容、日時を決定
- ②児童に①を周知し募集を始める。(活動該当の学級に児童会児童が活動内容を説明)
- ③参加者名簿に児童が記名する。
- ④活動実施
- ⑤評価 (児童一人一人の活動の回数や様子を記録)

【これまでの活動】

全校 秋の落ち葉拾い・クリーン活動

1年 落ち葉拾い

2年 図書室の本の整理

3年 落ち葉拾い・外階段の清掃

4年 落ち葉拾い

5年 階段の清掃

6年 落ち葉拾い・図書室の清掃・ストーブの運搬



4年生 落ち葉拾い



5年生 階段の清掃

【児童の様子】

- ア 活動の周知を楽しみにしている児童が多い。職員室前に次回のボランティア活動が掲示されるとこぞって参加名簿に記名している。友達に誘われて参加する児童や、当日になって参加する児童も受け入れている。
- イ 児童は、教職員から褒めてもらったり、「ありがとう」と感謝されたりすることが嬉しいようだ。
- ウ 5年生の階段の清掃では、時間内にきれいにできなかったため、自主的に清掃したいと提案する児童がいた。また、その提案に賛同する児童もいた。児童は「これが本当のボランティアです。」と言っていた。

取組の課題・創意工夫『キーワード：継続』

1 課題

- ア 「子どもボランティア活動」は一時期に集中して行うのは適切ではない。入学から卒業までの6年間を通して、継続していくことが望ましい。
- イ 活動を評価することは児童の自尊感情や意欲を向上させるが、児童が評価されることを目的に活動を行うことはふさわしくない。

2 創意工夫

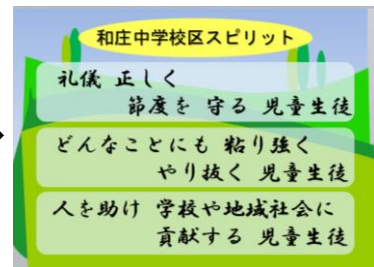
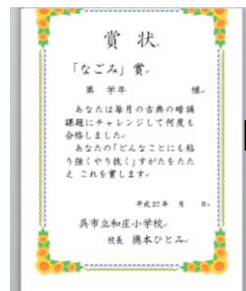
- ア 「子どもボランティア活動」を「和庄中学校区スピリット」と連動させている。
- イ 多様な評価方法を設けている。(口頭評価, なごみ賞など)



ボランティア活動



評価



和庄中学校区スピリット



広がる, 深まる

取組の成果(効果)『キーワード：浸透』

- ア 児童が活動している姿を他の児童が見ることで、お互いがよい手本になっている。
- イ 取組が児童に浸透し、広がりつつある。
- ウ 児童が自主的に清掃活動等に取り組むことができた。
- エ 友達と協力することができた。
- オ 教職員から肯定的評価を受けることで、よりよい関係が築けている。

今後の展開『キーワード：広げる』

- ア 期待すること
- ・児童が自主的にボランティア活動を計画し、継続的に活動する姿。
 - ・ボランティア活動が全ての児童にさらに浸透すること。
- イ 改善すること
- ・ボランティア活動の年間計画をつくる。
 - ・校務分掌の位置づけ, 組織的に取り組む。

他校へのアドバイス『キーワード：相乗効果』

- ア 児童の活動状況を掲示物にしたり, 具体的にほめたりしながら, 肯定的に評価する機会を充実させることで, 自尊感情の向上を図りましょう。
- イ 特別活動として取り寄せたことをきっかけに, 自主的な参加を呼びかけていくことも大切です。
- ウ 取組が継続できるように, 見通しを持って組織的に取り組むことが大切です。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立可部中学校	校長氏名	重森 雅穂	生徒指導主事氏名	益田 幸始
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『ケアハウス かんべ村 訪問』

取組のねらい『地域との交流を深める』『入居者の方々と交流を深める』

- ・ 地域で生徒が活動し、認められることによって自己肯定感をもつことができる。
- ・ 地域の方々に生徒と接してもらい、知っていただくことで防犯活動にもなる。
- ・ 高齢者との交流をし、相手を気遣うという体験は生徒たちにとって学校生活では体験できない貴重な時間とする。
- ・ 高齢者との接し方（コミュニケーション能力）や学校外でのルール・マナーについて実践をする場とする。

取組の具体的内容『高齢者・施設の方との交流』

- ・ 生徒会執行部が中心となり、「司会・進行」を行う。また、自己紹介も行う。そして、代議員会より各クラスに知らせ、ボランティアを募り、約120人で施設を訪問する。
- ・ 吹奏楽部の演奏発表や合唱伴奏を行う。
- ・ 執行部による劇を行う。
- ・ ゲームを考えて、入居者の方々と生徒が一緒になって交流する。
- ・ 参加生徒全員で歌を歌う。



- ・ 自己紹介カードを各個人で作成し、利用者の方々に手渡した。

取組の課題・創意工夫『出し物の工夫』と『生徒が利用者への対応』

- ・ 利用者との交流を行うため、自己紹介カードの作成や話をする話題について考えた。
- ・ パンフレットの文字の大きさを工夫した。
- ・ 劇で使う小道具やシナリオを自分たちで考えた。

取組の成果（効果）『ボランティア』と『思いやり』

- ・ 利用者の方との接し方、話すときの姿勢など利用者に合わせて姿勢で接していた。
- ・ 新しく参加する生徒も多く、ボランティア参加への思いが出てきた。



今後の展開『定期的に多くの参加を募る』

- ・ 年2回の訪問開催以外にも様々な交流を行い、訪問への参加者を増やしていく。
- ・ 交流内容を参加者、利用者が楽しめるものにする。

他校へのアドバイス『挑戦』

- ・ 生徒が自分たちで交流内容を工夫できるようにアドバイスを行う。
- ・ 交流事業所との打ち合わせを入念に行う。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立亀崎中学校	校長氏名	松脇 守弥	生徒指導主事氏名	山縣 雅樹
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『訪問ボランティア活動』

取組のねらい 『豊かな人間性の育成』

- ・ 勤労への意欲をもたせ、自主性・協調性・ボランティア精神を培う。
- ・ 他人に対するやさしさ、他人の立場で考える思いやりの心、他人の人権を尊重し共感する温かい心情を育てる。
- ・ 社会に目を向け、社会の中で自分を自覚し、身近なところから始められるボランティア活動を通じて自治能力を高める。

取組の具体的内容 『生徒会活動の一環として』

- ① 生徒会の代議員会を通じて訪問ボランティア参加希望者を募る
- ② 生徒会執行部と参加希望生徒に対して 2 回の事前打ち合わせや指導を行ない、訪問先で行う内容・当日の役割分担などを考え、動きの確認を行う
- ③ 地域にある 2 つの施設（広島原爆養護ホーム倉掛のぞみ園、老人保健施設さんさん高陽）を訪問し、レクリエーションなどを施設利用者の方々と行う



取組の課題・創意工夫 『生徒の自主的な活動』

生徒から発信をすることにより、生徒の自主的な活動として取組を進めていくことができている。訪問先の活動内容も、前年までの内容を参考にしながら生徒自身が考えている。そのことにより、各学年約 3 分の 1 の生徒は毎年このボランティアに参加している。



取組の成果（効果）『思いやりの心』

当日の活動が終わった後には、高齢者に対する思いやりの心が育っている。また、活動に対する達成感も大いに味わい、参加生徒からは「また行きたい」という言葉が多く聞くことができる。



今後の展開『地域の中の子ども』

地域が高齢化した団地であることから、生徒たちは普段から高齢者と接することが多い。これまでの取組による、良い雰囲気を継続して取り組んでいきたい。

他校へのアドバイス『地域の特徴』

地域の特徴を活かして活動に取り組めると、無理なく有意義なものになると考えます。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立神辺中学校	校長氏名	金田 耕治	生徒指導主事氏名	山口 義哉
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『ボランティア活動』

取組のねらい キーワード『自己肯定感』

・ボランティア活動により他者から「認められる」「誉められる」ことを通して、自己肯定感を高め、暴力行為の問題行動の減少につなげる。 → 望ましい人間関係を形成する。

取組の具体的内容 キーワード『活動をルーティーンに』

- ・月に1回程度、ボランティア活動を計画、実施する（ボランティアをお知らせに申し込み用紙をつけ、事前に人数を把握（当日参加も可））。
- ・ボランティアカードに感想などを記入し、参加生徒にはシールを貼る。
- ・ボランティア中に写真撮影する。
- ・ボランティア通信を定期的に発行する。

生徒のみなさん 2016年(平成27年)12月14日
福山市立神辺中学校生徒会

12月の校内ボランティアについて

先月は、PTA 一斉清掃を行いました。音読掃除が行き届かないところを、清掃し、清々しい気持ちになりました。..
今月は、2日間実施します。多くの人数が参加してくれることを楽しみにしています。..

日時 2016年(平成27年)12月16日(水)、17日(木) 12:46~..

集合場所 体育館前、
清掃場所 校舎周り、グラウンド、
清掃内容 石拾い、ゴミ拾い、落ち葉拾い
※分担当は、当日指示があります。

服装 神辺中体操服もしくは、部活動でそろえた運動着、
持参物 体操服、ボランティアカード、シャープペン1本、筆手、..

12月校内ボランティア参加申し込み票

()年()組()番 名前()..
いずれかに〇をしてください。..

16日(水)のみ参加	..
17日(木)のみ参加	..
16・17日両日参加	..

申し込み締め切り **12月15日(水)**

※各クラスの担任の先生に提出してください。..

ボランティアカード

学年	組	番	名前
1年			
2年			
3年			

年	月日	ボランティア名	活動場所	感想等	活動印
平成27 2015	5/10	校内ボランティア	ばら園	初めてマボロコフティで しながんくさん等をめざ す、30分ほど活動した。..	Good Job!
2015	7/2	7月校内ボランティア	ばら園	思いやり年を思い、緑 色だった地面や樹には 黄色が見えなかった。..	Good Job!
2015	8/27	8月校内ボランティア	ばら園	最初が疲れてさされて たので早く、取戻はと ても達成感があつた。..	Good Job!
2015	10/22	10月校内ボランティア	ばら園	あじとんを左と右のい で、撃たかたし、かんば ました。..	Good Job!
2015	11/6	11月校内ボランティア	校舎前	校舎の前には12月まで あがが、たくさんい て、あががたつた。..	Good Job!
平成28 2016	2/2	2月換装ボランティア	坂	朝から朝持ちの寒い あいさつをし、かりと んが良かった。..	



2016年(平成27年)12月21日
神辺中学校 美化委員会

ボランティア通信 No.5

12月のボランティアは、16日、17日の2日間行いました。落ち葉拾い、石拾い、ゴミ拾いを行いました。..
審査の中、2日間合わせて、98名の参加がありました。ありがとうございます。来年も行い
ますので、また参加したくないの生徒は、参加してみましょう。..

生徒の感想

- ・たくさんのゴミがとれて環境もきれいになって良かった。(1年女子)
- ・ゴミをたくさん拾って嬉しかったです。(1年男子)
- ・たくさんのゴミを拾うことができた！初めてのボランティアだったので良かった。(1年女子)

生徒の感想

- ・ノリノリっていい匂いするのやさいなをたくさん拾って良かった。(2年女子)
- ・きれいになったので良かった。明日も頑張りたい。(2年男子)
- ・たくさんの落ち葉を掃除することによって心も綺麗もきれいになった。(3年女子)

取組の課題・創意工夫 キーワード『多方面から誉める』

課題

- ・ 計画的に実施できていないこともあり，参加人数に伸び悩みがあった。
- ・ 部活動単位で，参加を促していくこと。
- ・ 教員主導になっている。

創意工夫

- ・ 参加した生徒を教員が誉める。 →参加教員・担任・校長が誉める。
- ・ 地域住民が誉める。 →神中バラ会の活動日とリンクさせ，地域住民に誉めてもらう。
- ・ 保護者が誉める。 →ボランティア通信をきっかけに保護者に誉めてもらう。
- ・ 生徒指導主事が教員を誉める。 →参加教員をタイミングを見て誉める。第3者を経由して誉める。

取組の成果（効果） キーワード『道徳的価値の醸成』

- ・ 参加生徒の感想で 「バラ園の草抜きをした。大変だったけど，学校の為にも動くことができた。」「トイレ掃除をした。きれいになって良かった。これからはきれいに使いたい。」というような感想があった。
- ・ 生徒会や部活動の部長，神中リーダー以外の生徒が輝く場面があった。

今後の展開 キーワード『任せる』

- ・ 生徒会執行部（本校では本部）の活動の一部として，位置づけ，生徒が企画・運営できるようにする。
- ・ 生徒指導主事が携わるのではなく，他の教員が生徒の運営補助ができるようにバトンパスしていく。
- ・ 校内だけでなく，地域に出ていき，公園清掃や祭りの手伝い等，地域ボランティアを活性化させる。



他校へのアドバイス キーワード『取組を楽しむ』

- ・ 「面倒くさい」というような姿勢でなく，教員が，ボランティア活動のねらいを共有し，楽しみながら同じベクトルで活動に参加する。



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立仁方中学校	校長氏名	御堂岡 健	生徒指導主事氏名	釜山 郁美
-----	----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『一部活一貢献から一人一貢献へ』

取組のねらい『キーワード：自己有用感の醸成』

生徒一人一人が自信と誇りをもち、自分も地域や社会の役に立つ人間であることを自覚して、自己有用感をもてるようにするため、生徒会活動の中に「貢献活動」を位置付け、自主的、実践的な態度を育てる。

取組の具体的内容『キーワード：貢献』

生徒会活動の一環として位置づけ、生徒会担当教諭の指導の下、執行部が提案し、活動する。

【一部活一貢献の取組】

- ①部長会で、趣旨と内容について連絡する。
- ②各部で活動の内容について話し合う。
- ③各部で、継続して定期的実施する。

※各部活の取組内容

- [陸上部] 公園の草抜きとゴミ拾い (月 1 回)
- [ソフトテニス部] 駅周辺の掃除 (週 1 回)
- [野球部 ソフトボール部] グランドの草抜き (週 1 回)
- [サッカー部] 先生から依頼のあった内容
- [バスケットボール部 剣道部] 体育館の掃除 (週 1 回)
- [吹奏楽部] 教室・トイレ等の掃除 (土曜日)
- [図書部] 石庭周辺の草抜き (週 1 回)
- [仁方KFB] 花壇の整備, トイレに花を飾る。



ソフトテニス部による掃除



取組をまとめた掲示物



仁方KFBによる花壇整備



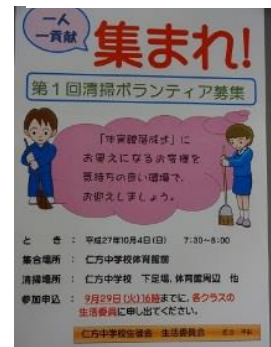
野球部による草抜き

【一人一貢献の取組】

- ①「一人でもできる」ことを目標に、ボランティア活動を企画
- ②代議員会を通じて各学級に連絡
- ③ポスター掲示でボランティアの募集
- ④清掃ボランティアに参加

※具体的な取組内容

- 第 1 回 10月4日(日) 7:30~8:00 (体育館落成式の朝)
 - [掃除場所] 体育館のエントランスやトイレ, 下足場, 廊下, 正門付近等
 - [参加人数] 39名
- 第 2 回 12月13日(日) 8:00~11:30 (トイレ掃除ボランティア時)
 - [掃除内容] 「日掃除に学ぶ会」の皆さんと共に、一人1つの便器を受け持ち磨く。
 - [参加人数] 61名 (日曜日にもかかわらず、全校生徒の3分の1以上が参加)
- 第 3 回 1月13日(水) 7:30~8:00 (教育長来校時の朝)
 - [掃除場所] 下足場, 廊下, 階段, 来賓用トイレ, 正門付近等
 - [参加人数] 27名



募集ポスター



清掃ボランティア



トイレ掃除ボランティア



取組の課題・創意工夫『キーワード：ボランティア精神』

- ア 「一部活一貢献」は部活単位で実施するため、部活動に所属している生徒は必然的に活動に参加することとなるため、生徒の自主性・自発性を尊重するために、「一人一貢献」へとステップアップさせていった。
- イ 上級生ほど参加人数が多く、これまで3回とも、1年生の参加者数が上級生に比べて少なかった。道徳の時間の学習とも関連づけながら、参加を促していきたい。
- ウ これまで、教員側からの発案を受け、生徒会が動くという形で取り組んできた。清掃活動以外にも何かできないか、学校外（小学校や地域で）でも、できることはないか等、広く生徒からの意見を取り入れることにより、より主体性のある取組にしていきたい。

取組の成果（効果）『キーワード：評価』

- ボランティアは、本来、評価や見返りを求めるものではないかもしれないが、褒められ、認められることにより「自分が役に立った」と感じ、自己有用感につながっていくと考える。
- ア 「一人一貢献」は、自分から手を挙げて参加するため、参加した全ての生徒が、ひたむきに一生懸命に活動した。学校長は、学校朝会でその様子を讃え、学校だよりや生徒指導だより、ホームページでも、その都度紹介した。
- イ 「呉掃除に学ぶ会」の代表者の方は、閉会式で「これまで161回実施したが、今日のみなさんは、3本の指に入るくらい一生懸命、そして気持ちよく最後まで取り組んでくれました。」と褒めて下さった。
- ウ 来校した方も、早朝の清掃ボランティアに対してお礼を述べられ、それを生徒に伝えた。

今後の展開『キーワード：地域へ』

現在、地域とのつながりという点では、地域行事への参加の他、月1回の仁方駅での小中合同あいさつ運動を行っている。今後は、まちづくりセンターや各団体とも連携しながら、中学生ができる貢献活動を設定して参加を募り、「自己有用感の醸成」とともに「地域の一員としての自覚」を育てていきたい。



あいさつ運動

他校へのアドバイス『キーワード：生徒会活動の活性化』

勉強に部活動にと生徒は忙しい。しかしながら本校では、各クラスにおいて、委員に立候補する生徒が多い上に、生徒会役員にはここ数年、6名の定員に対して十数名の立候補がある。各委員会は、当番活動と学期に1回の委員会独自の取組の他、行事においては分担して仕事を受け持っている。生徒会執行部は、行事等において、ともに働く同級生と一緒に様々な経験を積んで力をつけており、下級生は上級生のそんな姿に憧れ、お手本となる上級生に目指す自分を重ねる。

生徒会活動は、自主性や責任感を育て達成感を味わうことができるため、部活動と同様に「積極的生徒指導」の場であると捉えながら取組を充実させていくことがポイントである。



登校時の選挙運動

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市中学校	校長氏名	今井 敏雄	生徒指導主事氏名	日野 真里
-----	------------	------	-------	----------	-------

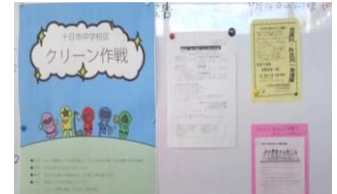
取組事例名 『人と人をつなぐボランティアで自己肯定感を高める』

取組のねらい『キーワード 学校から地域へ飛び出そう、やらされるから進んでやる』

- 校内・地域のボランティア活動で自己肯定感を高める。
- 各種ボランティア活動の中から自分で選択し、取り組んでいく。

取組の具体的内容『キーワード 気軽にできるボランティア』

- 年間通じて校内・校外を問わない幅広いボランティアを紹介（教頭窓口）。
- ボランティア募集（ボランティア黒板・学級掲示）。
- 各種のボランティアから自己選択し、申し込む。
- 時間・場所を確認し、各自でボランティア手帳をもって参加。
- ボランティア手帳に感想を記入する（ボランティアの足跡を残す）。確認シールを張る。
- 校内ボランティア（ボランティアを募集する生徒会委員会・小中生徒指導主事・教頭が企画、グループ分け作業内容を検討し実施）。



取組の課題・創意工夫『キーワード 地域とのパイプを太く』

（課題）

- 地域との連携パイプをいかにつないでいけるか。
 - ・教頭中心に地域の自治会と連携を取る。生徒会の委員会が中心になりきれしていない。
- 校内ボランティアを行うための段取りをどこで行うか。



（創意工夫）

- ボランティア黒板の設置
 - ・校内・校外でボランティアが必要であるとの募集ポスターを掲示した。
- ボランティア手帳の作成
 - ・自分の参加したボランティア活動を記録に残す。学校マスコットのシールを張り、自分の足跡と達成感を持たせる。
- 各委員会で工夫したボランティア
 - ・自転車小屋のペンキ塗り、図書館の本の整頓など生徒の目線での活動内容にする。
- 「朝ボラ」と称した短時間のボランティアの企画
 - ・部活動に入っている生徒も気軽にできる。（登校前30分）
 - ・花の植え替え、通学路の清掃を行う。



取組の成果（効果）『キーワード やってよかったと思えるボランティア』

○多くの生徒が達成感を持つことができた。

（生徒感想）・自転車置き場の錆が取れてすごうれしかった。また達成感がすごかったです。

・みんなで協力して掃除でき、小学生も一生懸命ごみを見つけしてくれました。すごくきれいになったのでうれしいです。

・民生委員さんがやさしく対応してくださいました。これからもいろんなボランティアに参加しようと思います。疲れたけどやりがいがあった。

（教師）・職員室から見える自転車小屋がきれいになりました。ありがとう。

○ボランティア活動に自主的に多くの生徒が参加するようになった。

・4月から、のべ611人余りの生徒が参加できた。

○与えられたボランティアから委員会でいろいろなボランティアの形を考えるようになった。

○自分にあまり自信をもてなかった生徒が、地域ボランティアを通して、積極的に活動を行うようになり、生徒会執行部に立候補をした。

○地域ボランティアから発展し、行政と一緒に里山づくりプランに中学生として参加することができた。

今後の展開『キーワード 教師主導型から生徒主導型に』

○生徒の目線で必要なボランティアを考え、企画運営ができるようにする。そのための教師主導型の運営組織を生徒主導型の組織に変えていく必要がある。

他校へのアドバイス『キーワード 継続して…』

○ボランティアを単発に終わらせないよう計画的に行い、継続することが大切である。生徒が達成感を持ち、かつ地域の人に喜ばれることで意欲の向上につながる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立黒瀬高等学校	校長氏名	田中 清裕	生徒指導主事氏名	三村 勝彦
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『黒高レンジャー』

取組のねらい『キーワード 主体性の育成』

黒瀬高等学校が、どうすれば明るく、雰囲気の良い学校になるのか。地域の方々の信頼を獲得するためには何が必要なのか。これらのことを生徒が主体となって考える機会を作り動機づけを行った。

取組の具体的内容『キーワード 明るい学校づくり』

取り組み内容を挨拶・美化・掲示・地域・花・旗掲揚などで区分化し、参加者を募りグループを結成した。参加者は全校生徒の 3 割にあたる述べ 100 名の生徒が手を挙げてくれた。

そして結成されたグループ別に行動アイデアを練り、準備、実践、振り返りの PDCA サイクルを回しながら、学校や地域の活性化に貢献した。



☆話し合いや準備の光景

取組の課題・創意工夫『キーワード 継続』

どのような取り組みにしても言えることだが、主体的な取り組みを、継続させることが非常に難しい。そのような状況において、ボランティアを通じて知り合った地域の方々や PTA 活動などで交流を持った保護者の方の掛け声は生徒の継続の原動力となった。

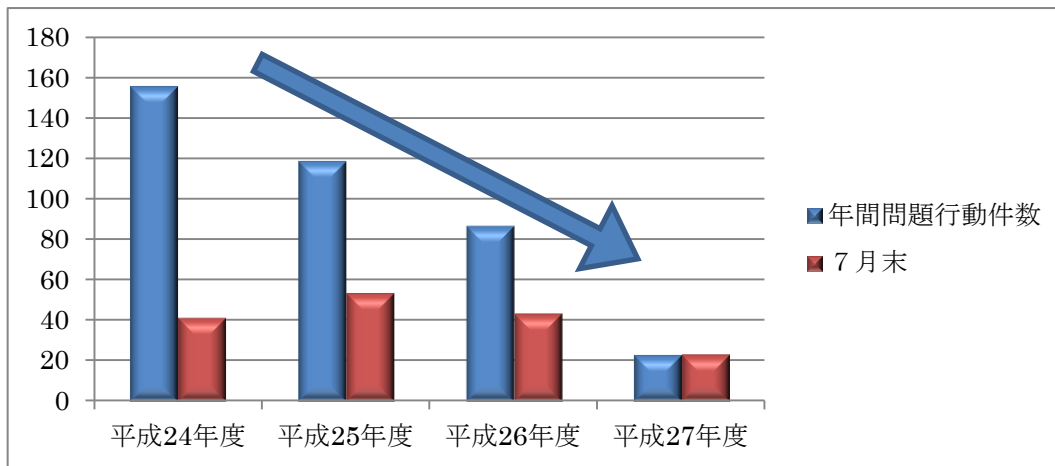


☆地域の方々とボランティアを通じて触れ合う。

取組の成果（効果）『キーワード 自己存在感の獲得』

生徒の表情が明るくなった。「褒められる」「必要とされる」といった肯定的な体験を通じて、自己存在感が芽生え、社会の中での自身の必要性を生徒なりに感じ取れた結果であろう。

また、生徒の会話にも変化が現れ、学校生活を律し、明るく信頼される学校になりたい。といった趣旨の会話が聞こえてくるようになった。更に成果は数字にもハッキリと表れ、問題行動数が激減した。



今後の展開『キーワード 拡大』

黒高レンジャーという取り組みを通じて、生徒の自己存在感や肯定感が向上した。今後はレンジャーのみならず、部活動や勉強といった分野で、主体的に目標を設定し準備、実行する生徒を育成することが重要である。そうすることで、様々な場面で自己存在感や肯定感を得られる生徒が増えると考えている。



☆活動風景 挨拶レンジャー



☆活動風景 花レンジャー

他校へのアドバイス『キーワード 信じてやらせる』

実際は生徒が動かない場面も多々あるが、「失敗しても良い」くらいの余裕をもって待つことも必要である。褒めることも重要であるが、すぐに褒めるのではなく、努力してチャレンジした姿勢が見られた時に褒めることが大切です。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立神辺高等学校	校長氏名	井出 和雄	生徒指導主事氏名	吉岡 史裕
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『奉仕活動』

取組のねらい『気づく→考える→行動する→変わる』

奉仕活動は手段であって目的ではない。奉仕活動を通じて特色のある町「神辺」に気づき、そこに暮らす住民、歴史的遺産建造物について考えさせる。また町内の環境面についても考え、少しずつ自分と神辺のつながりを意識して行動し、3年間の中で神高生として、地域に根差す学校の一員として自覚を持つ人間に変容させる。

取組の具体的内容『神辺』

神辺高校は神辺町内の住宅地内、旧商店街や天別豊姫神社、簾塾、本陣、神辺城跡などの歴史的建造物の近くに位置しており、地域住民との距離も近い。地域に根差した学校であるとともに、生徒にその自覚を持たすため奉仕活動を行っている。各HR毎に分担場所を決め、神辺高校半径1.5キロ以内を清掃及びあいさつ活動。(年3回) 指導を受けている生徒、加えて過去に指導を受けた生徒はJR神辺駅、井原線神辺駅の清掃活動、神辺本陣や簾塾周辺等の清掃活動、町内清掃活動、地域店舗や民家の手伝い、及びあいさつ活動を行っている。

(毎日8:10~8:30または放課後、長期休業中は1日約2~3時間実施)



【神辺マップ① (制作: 総合的な学習の時間「美術」)】

取組の課題・創意工夫『気づく』

奉仕活動を通して、神辺町内の良い環境、建造物等の歴史的価値、近隣住民の神辺高校生徒に対する見方(思った以上に見られている)に気づく。生徒が作成した神辺町マップを参考に通学路、路地、商店街、歴史的建造物などを把握する。生徒からは「こんなところに昔はお城があったんだ」「神辺は路地が多く狭いので通行が危ない」「自転車はこの辺は気をつけないといけない」「国道313号線沿いはゴミが多い」「井原鉄道の駅は無人駅だからゴミが目立つ」「店の人が声をかけてくれた」「お礼にお茶もらった」「お疲れ様と言われバラをもらった」「アルミ缶で作った鳥よけをもらった」「いつもきれいにしてくれてありがとう、とお礼を言われた」「神辺高校の生徒はよく挨拶をされると言われた」などの感想が寄せられた。また、近隣住民や地域ボランティアの方々から、清掃や神辺高生の元気の良いあいさつに対するお礼が生徒指導部に寄せられた。



取組の成果（効果）『考える』

(1)自分たちがきれいにした場所が後日汚れていたら憤りを感じている。

「なんできれいなところを汚すの?」「自分たちが掃除した場所が汚されることが信じられないし、腹が立つ」など

(2)神辺町地域住民や地域ボランティアの方々からよく連絡がある。挨拶をよくしてくれる、国道沿いがきれいになった等→集会で生徒に報告している。(いいところはとことんほめる)

(3)地域商店や住民から工芸品の作り方を教わったり、歴史建造物の紹介を受けたり、休憩にお茶を出しただけだったり、神辺高生として地域社会とコミュニケーションの場がとれるようになった。また、お礼に育てたバラを頂いたりしている。

(4)生徒が神辺高生としての自覚が芽生えた。(→登下校時に挨拶をさらに積極的にできるようになった。指導を受けた生徒が「やってよかった。地域の方の対応がうれしかった」など意義を感じていた)

(5)地域の方々が苦情や意見も率直に学校に伝えることができるようになった。

(6)地域の祭りや商店街行事に招かれることが増えた。(神辺公民館まつり、神辺夢フェスタなど)



【クリーン活動（平成27年）】

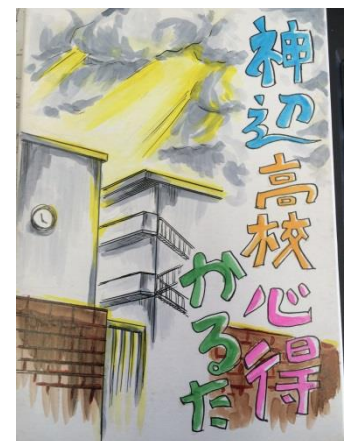
今後の展開『考えさせる→考える』

すべてを教員側で決めて指示しない。目的を与え、そのために手段を生徒達に考えさせて実践させる。自ら考えた行動は失敗しても決して否定しない。「気づく」「考える」「行動する」を自分達でできるようにする。(きっかけを与える「仕掛け」は行う)

特別な指導を受けたことがある生徒が変われば、周囲の生徒へ影響を与える。生徒が変われば教員が変わる。全員が変われば学校が変わる。それぞれが自分達の役割を認識して行動する。

他校へのアドバイス『地域の特徴を把握する』

神辺高校周辺は新興住宅が少なく、昔から神辺に根差している住民が多い。また旧商店街や歴史的建造物も点在しており、その特色を活かした教育活動を取り入れている。具体的には、総合的な学習の時間等を用いて神辺町探索(各寺、神社、廉塾、旧街道等)、美術選択者による神辺マップ、神辺かるたの制作、食品選択者による神高まんじゅう作製など。各校、地域の特性や地理的状况を活かし、工夫を凝らした地域貢献を行うことが可能である。



【神辺高校心得かるた】